

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成29年12月11日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所 属 部 局 理学研究科附属天文台

職 名 教授

氏 名 一 本 潔

助成の種類	平成29年度 ・ 国際会議開催助成		
国際会議名	(和文) アジア太平洋太陽物理学会2017 (APSPM2017) (英文) Asia-Pacific Solar Physics Meeting 2017 (APSPM2017)		
開催期間	平成 29 年 11 月 6 日 ～ 平成 29 年 11 月 10 日		
開催場所	京都大学国際会議イノベーション棟シンポジウムホール		
参加者	総数 150名	内訳 国内 60名、海外 90名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	5,226,396 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)参加登録費、名古屋大学宇宙地球環境研究所国際研究集会経費、国立天文台研究集会経費、科研費・新学術「太陽地球圏環境変動予測」	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費	896,220	0
	招へい旅費等	3,372,610	736,313
	印刷費・製作費等	390,392	220,892
	事務・通信費	39,579	39,217
	消耗品	174,005	3,578
参加登録管理委託料	333,590	0	
謝金	20,000	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団の国際会議助成には大変助かりました。国内外からの参加者招へい旅費や参加者への資料代として活用させて頂きました。貴助成は執行面で自由度が高く、柔軟に活用することができました。ありがとうございました。		

成 果 の 概 要

理学研究科附属天文台 教授 一本 潔

アジア太平洋地域における太陽物理学研究は、日本の太陽観測衛星「ひので」(2006年～)、インドの太陽X線観測衛星「SOXS」(2003年～)、中国の新太陽電波ヘリオグラフ(2015年～)や口径1m真空太陽望遠鏡(フーシャン湖NVST、2011年～)、米国の口径1.6m太陽望遠鏡(ビッグベアNST、2011年～)など、人工衛星・地上観測の装置の観点だけでも、著しい発展を遂げています。また、アジア太平洋地域の急速な太陽物理学分野の発展に伴い、中国・インド、日本・韓国といった2国間連携を中心とする国際共同研究の推進も活発に行われています。

本国際会議「アジア太平洋太陽物理会合(Asia-Pacific Solar Physics Meeting: APSPM) 2017」は、この地域の太陽物理学分野の研究交流を一層加速し、最新の研究成果を共有したり、共同研究を推進したりすることを企図し、2011年から2年に1度の頻度で開催され、これまでにインド・中国・韓国で行われました。通算第4回目となる今回のAPSPM2017は、初めて日本での開催となりました。また今回は、アジア太平洋地域において、太陽物理学分野周辺の研究領域(太陽系科学、宇宙天気・宇宙気候、恒星物理学)との一層の研究交流を促進できるよう、招待講演者の選定やプログラム作成に配慮をしました。

APSPM2017では、4つのセッション「装置開発の進展と将来計画」「太陽外層大気 of 電磁流体プロセス」「太陽フレア・噴出現象と宇宙天気予報」「太陽内部構造と太陽・恒星活動サイクル」が設けられ、それぞれに基調講演・招待講演を、また一般講演の枠があり、4つのセッションで、総数50件の口頭講演がありました。また、ポスター講演は90件ありました。APSPMはまた、若手研究者を対象とした表彰の制度も充実しています。今回は、これまでの研究業績に対するYoung Career AwardがP. F. Chen氏(中国)に贈呈されました。その記念講演では、参加者が熱心に聞き入り、質疑応答でも時間を忘れて議論が展開されていました。また、APSPM2017での講演に対するBest Presentation Awardが設けられて口頭講演で発表される研究成果はさることながら、ポスター講演でも多くの研究成果が発表され、休憩時間にはその前で活発に議論する姿が各所で見られました。本賞は、今回はG. Hazra氏(インド)、鳥海 森氏(日本・国立天文台)、Q. Hao氏(中国)に贈られました。

APSPM2017では、15ヶ国から150名(内、海外からは90名)に上る参加がありました。APSPMの基幹国(中国・インド・日本・韓国・台湾・オーストラリア・米国)以外の、発展途上国を含む多くの国から参加者がありました。APSPM2017は、京都大学教育研究振興財団の他、名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会経費、新学術「太陽地球圏環境予測(PSTEP)」、国立天文台からの支援を受けて開催されましたが、これらの財政的な援助により、アジア太平洋地域を中心に多くの国からの参加を受け入れることができました。

今回の研究集会を通して、今後、アジア太平洋地域に展開されているさまざまな観測施設のデータ解析が促進され、またそれらを通じた学生・若手研究者・発展途上国の研究者等を支援することが可能になると期待されます。さらに、今後アジア太平洋地域の大型将来計画として、すでに建設・開発が始まっている米国・ハワイのDKISTやインドのAditya衛星をはじめ、インド2m望遠鏡、中国8m望遠鏡、日本小型EUVST衛星等がありますが、これらはいずれも国際協力を必要とする大きなプロジェクトであり、本研究集会によって計画の内容を共有することができました。これにより、アジア太平洋地域における人材交流を促進しより強固な協力関係を築くことができると期待されます。

最後に、貴財団から支援して頂いた国際会議開催助成金100万円は、海外・国内参加者の旅費や参加者への資料作成経費などに充当させて頂きました。この助成のおかげにより、多くの

国から関連分野の研究者の参加を得ることができ、本国際会議を大変盛況に開催することができましたことを、改めて感謝致します。



会議の集合写真（京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて）